



## 草取り活動は、未来を生きるパワーになる！

今年の夏は新型コロナウイルス感染症が拡大し、予定していた行事等の変更を余儀なくされたご家庭もあったことでしょう。附属幼稚園でも予定していた草刈り作業を中止し、初めての試みで、自主参加型の草取り活動を実施しました。

ところが、活動参加率が86%に達していて、改めて附属幼稚園の保護者の協力的な姿勢に感謝しているところです。暑い最中に汗いっぱいかいて、袋一杯の草をとってくれた大勢の親子に出会いました。また、何度も足を運んでくれたご家族もいて本当に頭の下がる思いをしました。この場を借りて皆様に深くお礼を申し上げます。

子どもたちはお家の方に連れられて仕方ないと思った節もあるでしょうが、意外とせっせと活動する姿を多く見かけました。子どもたちにとっては、自分の幼稚園に久しぶりに来たことで張り切れたり、2学期の心の準備につながったりして、幼稚園に向かう力を刺激でき方が大きかったかもしれません。

何よりも、この夏草取りの奉仕活動に親子で参加できたことが、協力性や社会性といった非認知能力をご家族の姿を通して培っていったと思っています。この能力は「人生の成功を助けるスキル」ともよばれるほど大きな能力です。



### カブトムシからつながりが広がる



1学期末、夏を代表する虫、「カブトムシ」を附属幼稚園の卒園生の二宮さんからいただきました。毎年いただくということでしたので、二宮さんがカブトムシを幼稚園にくださるようになった経緯を聞いてみました。すると、「もともと幼稚園からいただいたカブトムシを一生懸命に育ててきました。」「我が子は、カブトムシのおかげで幼稚園生活により意欲が増しました。」と話してくれました。私は、二宮さんの思いを聞き、カブトムシには心が宿っていると考えるようになりました。

そんなカブトムシを夏休み前、希望者に持ち帰らせた学級がありました。すると、2学期が始まって、持ち帰らせた家庭から、二宮さんの話を聞いた娘さんが「私もカブトムシを育てたい」という気持ちを強くしてご家族で大切に育てたというお話を聞きました。幼稚園で育てたい姿をカブトムシが見つないでくれました。

